

令和7年度第1回高岡地域医療推進対策協議会、高岡地域医療構想調整会議、
高岡地域医療と介護の体制整備に係る協議の場の合同会議 議事概要

- 1 開催日時 令和8年3月5日(木) 13:30~15:00
- 2 開催形式 オンライン開催
- 3 出席者
 - (1) 委員 医療推進対策協議会 18名/23名(うち代理3名)
医療構想調整会議 23名/29名(うち代理2名)
医療と会議の体制整備に係る協議の場 2/3名
 - (2) 事務局 有賀厚生部長(オンライン)、岩村課長他17名

4 内容

1) 開会挨拶(有賀厚生部長)

2) 議題

(1) 協議事項

①新たな地域医療構想について

②医療計画中間評価について

③かかりつけ医機能について

- ・資料1~4について、事務局一括説明

(委員)

- ・新たな地域医療構想の検討にあたり、医療圏の見直しや再編といった大きな議題を議論する場が不足しているため、より広い視点で協議できる場が必要ではないか。また、本会議は議題が多く詳細な協議が難しいため、人数を絞り、重要な関係者で議論ができる仕組みを設けた方が良いのではないか。

(事務局)

- ・5疾病6事業・在宅医療をすべて本会議で詳細に協議するのは難しいため、まずは各部会で来年度に向けた議論を進めたい。また、必要に応じて医療圏ごとに新たな会議体を設けることも検討し、県医務課と厚生センターで調整しながら進めていく考えである。

④高岡構想区域 区域対応方針について

- ・資料5-1、5-2、参考資料3について事務局説明後、資料6について公的公立病院より順に発言

(厚生連高岡病院)

- ・急性期拠点として、今後がん診療や救急医療に重点的に取り組む方針。急性期に特化するため、地域包括ケア病床は来年度5月で返上し、病床削減を予定。現在、手術室・救命救急棟の老朽化が深刻で、早急な改築が必要な状況にある。国

の基金等の活用を含め、地域として改築の必要性について合意を得たい。

(高岡市民病院)

- ・診療報酬改定を踏まえ、今後の病床機能の転換も検討中。課題は医師・薬剤師などの人材確保である。

(済生会高岡病院)

- ・高齢者救急・地域急性期を中心に役割を果たす方針。呼吸器内科医の増員により、肺がんや慢性呼吸器疾患の診療を強化している。脳卒中は2名体制で一次脳卒中センターを継続し、手術が必要な症例は富山大学へ依頼している。救急は2次輪番の担当日を増やし、年間88日対応・救急車1800台を受け入れている。周産期は年間120件程度で、無痛分娩も開始。在宅医療は訪問看護・訪問リハで地域を支えている。
- ・病床は急性期151床、回復期100床のケアミックスで、当面増減の予定はない。
- ・高岡市内4公的病院で地域医療の将来を協議する場ができており、今後も連携して検討を進めていく。

(金沢医科大学氷見市民病院)

- ・氷見市の2次救急を他病院の支援を受けながら維持しており、人材不足の中で継続に努めている。病床は急性期196床のうち50床を地域包括医療病棟へ転換し、高齢者救急への対応強化を図っているが、導入直後で経営面の影響は不透明。

(射水市民病院)

- ・急性期と地域包括ケア病床が半数ずつ、病床数は当面変更予定なし。今年度から総合診療医が3名体制となり、高齢者救急を中心に地域の基幹病院として機能強化を図っている。高岡医療圏の急性期病院に過度な負担がかからないよう、射水市内で可能な限り完結できる体制づくりを進めている。

(JCHOふしき病院)

- ・高岡市北部地域の地域包括ケアを中心とした方針を継続しており、昨年9月に病床を199床から161床へ縮小し、地域包括ケア病床と急性期病床を半々で運用。超急性期を過ぎた患者の受け入れや回復期リハに力を入れている。

(委員)

- ・厚生連高岡病院が地域包括ケア病床を返上する方針を受け、当院としては増床を検討したい。まだ確約はできないが、満床で救急受け入れや紹介患者の受け入れに支障が出ている現状を改善できる可能性があるため、前向きに検討したい。

(委員)

- ・脳血管疾患を診る医師が不足している点は以前から大きな懸念であり、厚生連高岡病院だけの対応には限界がある。この分野は医療圏を超えた広域的な体制づくりが必要ではないかと考えているがどうか。

(委員)

- ・当院の脳外科医は定年後の延長勤務で対応しているが、大学からの後任確保は難しい状況にある。富山県全体で脳外科医が高齢化し、代替医師の確保が困難になっており、これは今後の地域医療における大きな課題である。

⑤地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業について

富山大学附属病院 病院長特別補佐（経営担当）

地域医療総合支援学講座 客員准教授 小林大介氏

- ・資料7について説明

（2）報告事項

①病床機能再編支援事業費補助金について

- ・資料8について事務局より説明

（委員）

- ・高岡医療圏の情報連携システム「家持あんしんネット」がアップデートされ、令和8年4月から1病院で同意を取れば他病院でも患者情報を共有できるようになった。
- ・厚生連高岡病院・高岡市民病院・済生会高岡病院に加え、射水市民病院、氷見市民病院、急患医療センター、JCHO ふしき病院の計7医療機関で診療情報の閲覧が可能となる。
- ・救急・災害時にも有効であり、病院機能分化や連携を進める上でも重要な基盤となるため、この場で報告した。

（3）全体を通じた質疑応答等

（委員）

- ・当院の地域包括ケア病床は、急性期治療後の受け皿として機能し始めている。
- ・厚生連高岡病院など急性期病院には、治療終了後できるだけ早く地域包括ケア病床へつないでほしい。

（委員）

- ・救急体制の維持が最大の懸念であり、2次救急を担う病院は少なくとも3つ必要と考えている。厚生連高岡病院の集約化は理解できるが、地域全体として1次救急が崩れないよう、万全な救急体制の確保を強く求めたい。

3）閉会挨拶（富山県高岡厚生センター 長瀬所長）